

2007年度実習報告書作成によせて

日本語文化専攻日本語教育学講座 日本語教育実習担当

鷲見 幸美

今年度も、多くの方々のご理解、ご協力を賜り、実習生が貴重な日本語教育実習を経験することができた。これまで同様惜しみなくご協力くださった名古屋市教育委員会、株式会社アルティアセントラル、名古屋大学留学生センターの関係各位に心よりお礼申し上げます。また、実習生を暖かく見守り、協力的に、積極的に日本語授業に参加して下さった学習者のみなさんにも感謝の意を表したい。

これまで長きに渡りご協力いただいた名古屋市教育委員会の方々には、特別にお礼を申し上げたい。本専攻の夏季日本語教育実習は、スタート時より名古屋市教育委員会にご協力いただき、名古屋市英語指導助手の方を対象にした日本語コースを開講してきた。長年に渡り、毎年7月から8月にかけて新規来日する JET プログラム参加者の研修の一部として本コースを位置付けてくださり、毎年数多くの学習者を送ってくださった。数年前からは名古屋市の JET プログラム新規採用がなくなったため、新規採用者以外の方に参加を募るようになったが、その際にもいろいろなご配慮をいただき、これまで実習を続けてくることができた。しかし、それも今年度参加して下さった一名が最後となってしまった。今後は JET プログラムからの参加はない。とても残念なことではあるが、これまでのご協力には心より感謝している。

JET プログラムからの参加者の減少とともに、夏季実習は数年前から「学習者の募集」が一つの課題となった。民間派遣会社に所属する英語指導助手の方にも参加を募るようになったが、その参加はあくまでも個人の自由な意志によるものである。「このコースで日本語を学習したい」と思ってくれる方がいなければ、コースは開講できない。今年度も、コースを開講できるかどうか不安な中で、夏季実習に向けた準備がスタートした。当初は参加して下さる方がなかなか集まらず苦戦したが、実習生の奔走により、なんとか開講することが可能となった。当たり前のことではあるが、「日本語のクラス」が「日本語を学習する人」の存在なくしては成り立たないことを、実習生共々痛感し、「主役は教師ではない」ということを再認識している。

今年度の日本語教育実習は、春季実習に12名（日本語母語話者3名・留学生9名）、夏季実習に9名（日本語母語話者2名・留学生7名）が参加した。限られた実習経験ではあるが、実習生の授業に取り組む姿勢は確実に変わっていった。面白さと難しさを知り、教師としての自覚を高めていった。やはり実践によって得るものは大きい。

実習生の奮闘記録であるこの報告書を、広く皆様に読んでいただき、ご助言やご批判をいただきたい。日本語教育実習にさまざまな形でかかわっておられる方々に、多少なりとも参考になることを、実習生共々願っている。